

当ガイドは、釣行に「必要な小物」から「準備と注意点」、「コツ」を紹介。
一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

★出掛ける前に必要な小物を購入

お買い物リスト

リーダーリンク 1つ



リーダーとフライラインを簡単に繋ぐ道具。今回は5番ラインが通るサイズを購入しましょう。通常は4〜5個のセットで売られています。

リーダー 2種類あると有利



先端に向かうほど、細くなる糸で、X(番手)の表示は最先端部の太さになります。フライの太さに合わせて番手を選びますが、ここでは4Xと5Xを用意しましょう。なお、長さはロッド(8.6フィート)よりも少し長い物を使います。

ティベット

1,2種類

ハリスに当たる部分の糸で、通常はリーダーの番手よりひとつ落とした太さ(6X)を使います。なお狙う魚が大きければリーダーと同等の太さを持ちましょう。



フライ

各2〜3個

水棲昆虫や陸棲昆虫を模した擬似餌。大きく分けると4タイプに分類されますが、最初は水面に浮かぶ「ドライ」と沈む「ニンフ」を用意しましょう。管理釣り場のフックサイズ(ハリの大きさ)は12番前後で、それぞれ各2〜3個あると万全です。

▶実績のあるドライフライ: エルクヘアカティス



▶同ニンフフライ: ヘアズ・イヤー・ニンフ



ドライスプレー

ドライフライを良く浮かせるための撥水剤。スプレータイプの他、粉やリキッド状のものもあります。



インジケーター

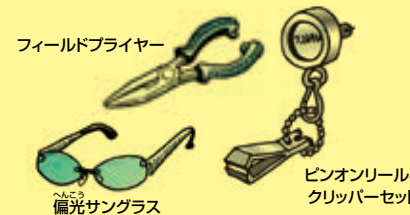
1,2個

ニンフ釣り時に使用する目印で、ウキの役割をします。通常はティベットにセットして使います。



その他の便利グッズ

●「ピンオンリール&クリッパーセット」や「フィールドプレイヤー」,「偏光サングラス」などは、『ゴールドマニュアルブック』の25ページを参考にしましょう。



★釣るための準備

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを!

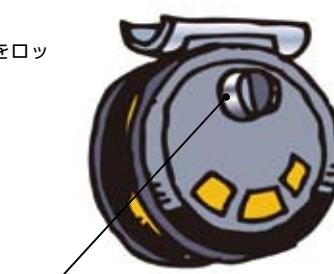
【フライリールの特徴】

基本的にフライラインを収納するだけの道具と覚えましょう。ちなみにロッドの8番以上にセットするリールからドラッグ機能を使うことが多くなります。

フット リールの足で、ここをロッドに乗せて止めます。



ハンドル ラインを巻くための、とってです。



ドラッグ 回してラインの出を調整するブレーキシシステムです。フライフィッシングは超大物以外、ドラッグを利用したファイトをしません。ここではラインを軽く引くと出てくる程度に圧をかけましょう。

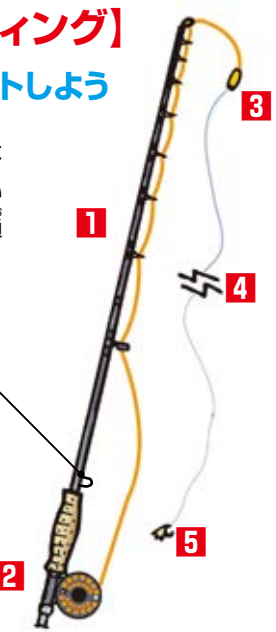
【釣具のセッティング】

1〜5の順でセッットしよう

作業は、まずロッドをつなぎ、リールをセット。続いて、ラインをガイドに通し、リーダー、ティベット、フライを結んでいきます。

フックキーパー ここにはフライラインを通さない。フライを仮止めておく所。

※ロッドの穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱きましょうね!



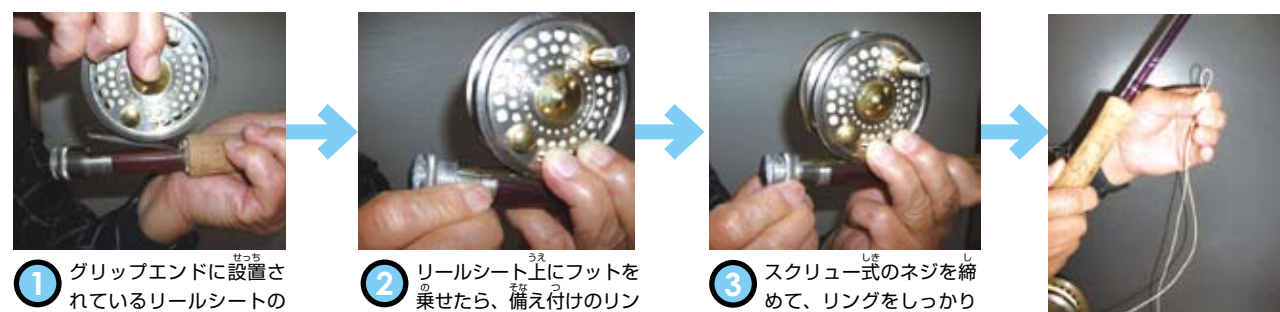
1 ロッドを組み立てる



穂先から順に継いでいきましょう。継ぎ目の根元を持ち、ジョイント部を合わせ、軽くねじ込むように押し込みます。ラインを通すガイドを一直線にすることも忘れずに!



2 リールをセットし、ガイドにラインを通す



① グリップエンドに設置されているリールシートの差し込み口に、フットの先をはめ込みます。※ロッドによっては、リングで挟み込むタイプもあります。

② リールシート上にフットを乗せたら、備え付けのリングをかまして借り止めます。

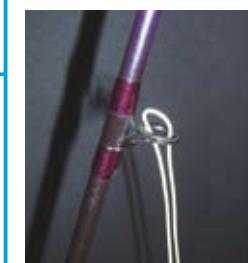
③ スクリュー式のネジを締め、リングをしっかり固定します。

④ ラインをリールから引き出し、写真のようにふたつ折りにして持ちます。

⑥ ガイドの先端まで通したら、折り返したラインを伸ばして終了です。

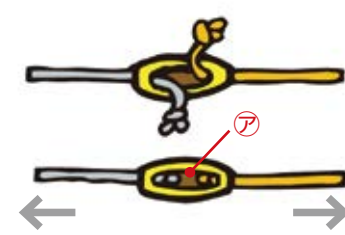


⑤ ふたつ折りにした先端を竿尻よりのガイドから順に通して行きます。



⑤ -2 フライラインは自重があるため、ガイド通し時に、スッポ抜けることがあります。それを防止するのが、このふたつ折りです。ちなみに仮に抜けたとしても、写真のようにガイドにひっかかってくれます。

3 リーダーリンクを使ってフライラインとリーダーをジョイント



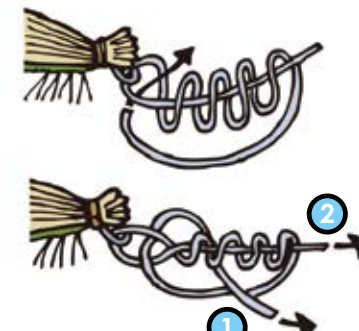
フライラインの先端をリーダーリンクの穴に通して片結び。さらにもう一つの穴にリーダーを通し、同様に片結びします。それぞれを引きあってリーダーリンクの穴の中に収納して終了です。

4 トリプルサージャンスノットでリーダーとティベットを結び



予め30cmくらいの長さに切ったティベットの端とリーダーの先端部を重ねて、大きめの輪の片結びをします。続いてその輪の中にティベット側の糸(2本)を2回くぐらせ、締め込んで完了です。

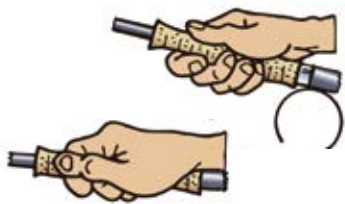
5 クリンチノットでフライを結び



イラストのようにティベットをフライのアイに絡め、①②の順で糸を締め込み結びます。詳しくはゴールドマニュアルブック29ページを参照して下さい。

※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!

●正しいグリップを覚えよう

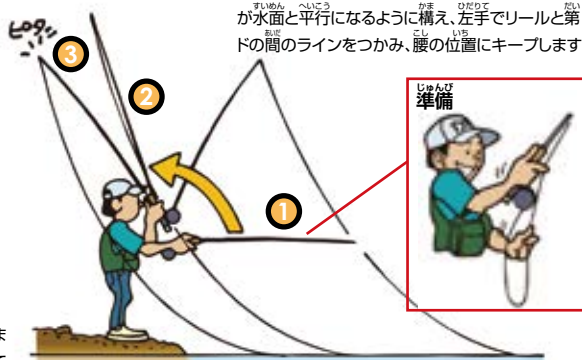


もっとも握りやすく振りやすいグリップが、この“サムオントップ”になります。指をグリップの真上に乗せ、残りの4本で軽く握りましょう。

●まずはロールキャストをマスター！

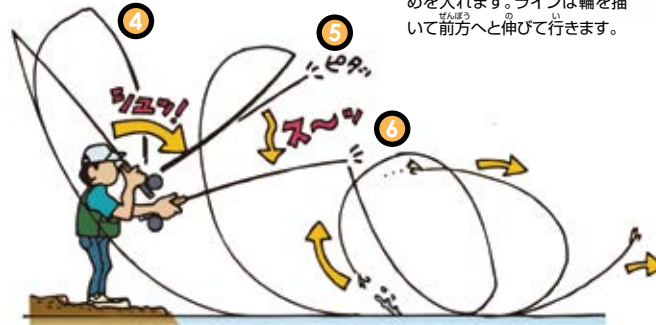
フライフィッシングは、ロッドを前後に振りながら、ポイントに至る距離分のラインを引き出してキャストしますが、ビギナーがまず覚えるならロールキャストです。バックスペースがなくても、前方にキャストできるスグレもので、これで十分楽しめます。

②ロッドをゆっくり立てていきます。水面でラインが徐々に伸びて近づく速度で行いましょう。なおロッドの角度は、垂直よりやや右に傾けるのが理想的です。



③ロッドが耳の横を通過し、時計の10時の位置まで引き上げたら、一度ストップ。ラインが肩越しに来るまで待ちます。

④ラインが肩越しを通過したら、瞬時にロッドを振り降ろします。この時、ロッドの角度を垂直に戻すことを忘れずに行いましょう。



⑥輪がターンオーバーする（輪が伸びきる）タイミングで、ロッドを水平よりやや上向き位置に移動させて一連の流れは終了。ラインを出しながら、これを何度か繰り返してポイントにフライを届けます。

※かたづけ上手は、釣り上手！
返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日まではお手入れをし、元通りに梱包しましょう。また釣具にキズをつけたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れてみましょう。

ロッドをたたむ場合は…

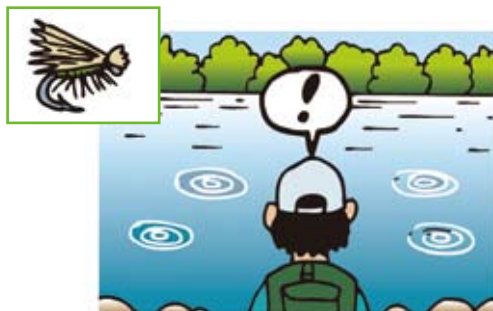


バッド部の継ぎ目から順に外して行きます。ジョイント部がキック締まっている場合は、ロッドを水平に持ち、継ぎ目の部分を持って、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜けます。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れてしまうので要注意です！

★釣り方のコツ：管理釣り場のトラウト編

攻略のキーポイントは水面のザワつき！ 2種類のフライでトラウトたちを迎撃

① ライズが多ければドライフライで迎撃



ポンドに付いたら、まず水面をチェックしましょう。水面に波紋（ライズと呼ぶ）が多く出ていたら迷わずドライフライをセレクト。その波紋近くにフライをキャストして勝負です。波紋は、魚が水面付近に飛んでいるエサ（水棲昆虫が羽化したもの）を食べていることを意味しています。つまり、水面に浮くドライフライにも良く反応し、イージーに釣れるってワケです。

② 静かならインジケーターを付けニンフで探る



水面が静かなら、魚が表層を意識していません。狙いを水面下に絞り、ニンフフライをチョイス。右上で紹介したポイントを中心に攻めましょう。なお、その時はインジケーターをセット。アタリを的確に捉えて釣りましょうね。

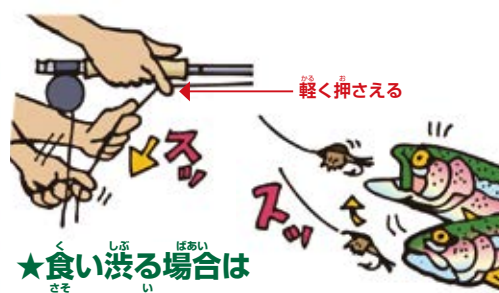
ビギナーは、フライをキャストするスペースが十分にあり、魚が大量に放流されている管理釣り場からスタートしましょう。

自然渓流型や人工渓流型など、さまざまなタイプがありますが、狙い目はズバリ、ポンド（池）型。ライン処理を必要とする急激な流れもなく、ポイントが絞り込みやすいメリットがあります。

インジケーターの付け方



インジケーターの両端の輪にあるストッパーを外し、ティベットに通します。その後、探りたい深さの位置にインジケーターを当てて、その切り込みにティベットを入れます。最後にストッパーを輪に戻して止めて完了です。※30cm以上の水深を探索場合は、ティベットを交換し、探りたい深さの長さにしましょう。



★食い渋る場合は誘いを入れてチェック！

魚に食い気がない場合は、イラストのようにフライラインをチョンチョンと引いて、ニンフを動かしてみよう。魚は、目の前にあるエサが動くと反応する場合があります（リアクションバイトと呼ぶ）。なお、この連続の動きや、引っ張る長さを変えて探るのも効果的となりますので実践してみましょう。

★管釣りのポイントはココ

魚が居着く所は、空気が豊富にある（有酸素量が多い）場所。かくはん器周りや流れ込みが1級ポイントになります。また身を隠す大岩周りや、通常、足元より2～3mの場所にあるカケアリも狙い目となります。



アワセから取り込みまでを覚えよう！



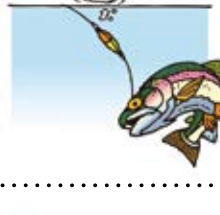
●アワセ

ドライフライ、もしくはインジケーターに変化を捉えたら、手首のスナップと同時に、フライラインを軽く引っ張ります。この動きで、ラインが張られフッキングに持ちこめます。



●ファイト

フライラインをしっかりつかんでロッドを起こし、その反発力を最大限に生かして魚を弱らせます。もし魚が走った場合は、魚と反対方向（サイドプレッシャーをかけて）にロッドを向けて対応しましょう。なお魚の走りが強烈な場合は、しっかりとつかんでいたフライラインを緩め、滑らすようにラインを出してファイトしましょう。



●寄せとランディング

魚が弱ったら、そのままの姿勢を保ち、フライラインを手繰って寄せてきます。注意点は、ロッドを持つ手でフライラインを押さえながら行うこと。そこを起点にテンションを保ち、もう一方の手でラインを引いて寄せて行きます。取り込みは、魚の頭からタモに入れてすくうこと！

